

北海道教育委員会「BRIDGE構築事業」
令和7年度（2025年度）授業等研究セミナー

道央・道南（情報）実施報告

- 実施日 令和7年10月3日（金）
- 会場 北海道札幌北高等学校
- テーマ 教科「情報」における生徒の主体的な学びを実現する
学習指導の工夫
- 参加者 36名（参集11名＋オンライン25名）



実施状況

【学習指導案検討会】

本セミナーの研究授業等の実施に向け、「授業研究チーム」を編成し、オンラインで学習指導案の検討を実施しました。

〔構成員〕授業者 北海道札幌北高等学校教諭 前田 健太郎
北海道札幌北高等学校教諭 藤島 慶太
協力員 北海道帯広緑陽高等学校教諭 宮川 尊充
北海道帯広三条高等学校教諭 土田 泰裕
行政 ICT教育推進課指導主事 福士 公一郎

実施日	検討内容	主な意見等
9月1日 （1回目）	単元計画 研究授業の目標	・過去の「高等学校教育課程編成・実施の手引」に掲載された同単元の計画例を参考に、生成AIの活用を加えることで、授業をアップグレードするという方向で単元計画等を検討する。
9月10日 （2回目）	単元計画 学習指導案 実践発表	・生成AIをどのタイミングで活用することで、どのような教育効果があるかを想定した上で活用場面を設定することが重要である。 ・実践発表では、単元の中で生成AIを活用した場面の紹介に留まらず、全学年で実施した生成AI活用の事前学習についても触れることとする。
9月26日 （3回目）	学習指導案 実践発表 当日のオンライン配信	・学習指導案及び実践発表資料の記載内容について確認する。 ・本時の目標を踏まえて、指導上の留意点を確認する。 ・会場におけるオンライン配信機材等を確認する。

研究授業の実施

[単元計画・学習指導案リンク](#)



[実践発表資料リンク](#)



【研究授業】

〔授 業 者〕 北海道札幌北高等学校 前田 健太郎 教諭
北海道札幌北高等学校 藤島 慶太 教諭

〔対象生徒〕 1年8組 〔単 元 名〕 情報デザイン

〔本時の目標〕

- ・グループ内で意見交換を行うことで、制作したピクトグラムを評価し改善する。また、生成 AI の助言も参考にして、ピクトグラムを修正する一連の学習過程を振り返り、新たな課題の発見につなげる。

〔本時のポイント〕

- ・グループ内での相互評価により、自己のピクトグラムを修正するとともに、生成 AI にも評価させることで、さらに改善が必要であるかを考える。
- ・クラウドサービスを活用して本時の振り返りを行う。

〔生徒の学習の様子〕

- ・机の配置を変化させながら、一斉学習から個別学習・協働学習へと学習場面が切り替わり、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に表出する中、積極的に学習に取り組んでいた。
- ・生徒同士で相互評価した後、生成 AI の評価結果を加味して、自己の学習過程を振り返り、新たな問題を発見しようとしていた。



【研究協議】（参集とオンラインのハイブリッド）

〔テーマ〕 教科「情報」における生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

〔主な意見〕

- ・作品（画像）を生成 AI に評価させるという発想が新しい。
- ・教材研究や授業準備に生成 AI を活用することで、教師の負担軽減にも繋がる。
- ・他者の一人として生成 AI に相談することができれば、学びのサポート役として活用できる。



【実践発表】 北海道札幌北高等学校 藤島 慶太 教諭

〔テーマ〕 生徒の主体的な活動をサポートする生成 AI の活用実践

- ・学校全体で生成 AI の活用を開始するに当たり、事前学習の実施方法や内容を紹介した。
- ・単元「情報社会の問題解決」において、思考ツールや生成 AI をどのように活用しながら問題を解決していくのか、具体的に実例を示しながら説明した。

セミナー参加者の声

【参加者の声】【アンケートの記載から（一部）】

- ・自校で行ってみたいと思っていた授業を実際に見ることができた。
- ・主体的・対話的で深い学びの充実について再確認でき、授業改善の大きな指針となった。
- ・生成 AI を対話的な学びのツールとして活用する新たな視点を得た。
- ・一斉・個別・協働学習をどのように組み合わせるのが効果的かを改めて考える機会となった。
- ・研究授業の内容を少し修正することで、本校の生徒にもそのまま使えると感じた。
- ・実際の生徒の反応等を見ることで、授業改善への理解を深めていけることを実感できた。